

◇建設業の働き方改革「女性の活躍促進について」

問1. 神戸

働き方改革を推進するうえで、将来の働き手となる人材の確保は喫緊の課題となっています。就労人口の減少は深刻な問題で、2017年には6,530万人だった働き手は、2025年には448万人減少で6,082万人となり、2040年にはさらに837万人減少し、5,245万人という数字が出されています。

それを補うために女性の就労が必要となり、なかでも女性の活躍促進は、「あいち女性の活躍促進行動宣言」によると、“多様な価値観や発想によるイノベーションを促し、あらゆる分野の活動を活性化させることにも繋がる”とされており重要と考えられています。これまでは男性の職場と考えられていた建設業も高齢化し技術者が減少しているということで、女性の躍進が最近話題となっておりますが、まず最初に現在の愛知県の建設業における女性の割合はどのような状況かお尋ねします。

答1. 建設企画課主幹

建設業における女性就業者の割合については、平成30年度の県内の一般事務職を含めた建設業全体の就業者数は約27万人で、この内女性は5万7千人でその割合は21%であります。この数値を10年前の平成20年度と比較すると、建設業全体の就業者数は、約1割減っているが、女性の就業者数は当時の4万5千人から6ポイント増えています。また、建設業における女性が占める割合を全産業と比較すると、全産業の平均が42%であるのに対し、建設業は21%であり産業別で最低の数値となっているのが現状です。

問2. 神戸

建設業に従事する女性の占める割合が少ない中、一般事務職の女性を除くと、建設業の将来の担い手となる女性技術者は、とりわけ少ないのが現状であります。先日、県内の建設現場で働く女性技術者でつくる「けんせつ小町・チーム愛」のメンバーが、仕事と育児の両立や職場環境の改善などについて意見交換する会合が開催されました。この会合には宮本副知事が出席されたと伺いましたが、どのような意見が交わされ、副知事からはどのようなご発言があったのでしょうか。お伺いします。

答2. 建設企画課主幹

「けんせつ小町・チーム愛」は、建設業の担い手確保の取組の一環として、中部地方整備局愛知国道事務所において、建設現場環境の改善や体制・制度の拡充を目的に建設会社、設計会社、行政の女性技術者により平成28年に結成され、勉強会や学生への就職支援活動などを展開しています。

先日の会合は、「けんせつ小町・チーム愛」のメンバー21名と愛知県で女性活躍推進に取り組んでいる宮本副知事による交流会として、女性技術者が建設業で長く輝き続け、建設業を魅力ある職場とすることをテーマに、6月10日に中部地方整備局の主催で開催されたものであります。

出席者からは、「女性技術者が社内に一人だけで、参考になるモデルがない。“チーム愛”での交流・情報交換は非常に有効で、社内の提案に活かしている。」、「育児休暇制度などの制度があっても中小企業では活用しづらい。」、「子どもが病気になったときの預かり先がない。」など、育児を始めとした家庭生活との両立の問題を中心に建設業界の現場で働く女性の悩みや発注者への要望が出されました。

副知事からは、「他産業もそれぞれの問題を乗り越えて女性が活躍して

いる。建設業界の女性の先駆者として、後輩が続くように頑張っていて欲しい。行政への要望があればいつでも言ってほしい。」と激励の言葉がありました。

問3. 神戸

例えば、働く人がほとんど女性であるという看護職や幼稚園・保育園等の職場においても働く環境整備が難しく、人手不足が深刻な問題となっています。更に条件が難しい建設業界において、女性技術者が一層活躍するために、愛知県として現在、どのような施策に取り組んでおり、今後、どのように展開されていくのかお伺いします。

答3. 建設企画課主幹

まず、建設現場の環境改善を図る取り組みとして、建設局及び都市整備局の工事において、平成27年度から「誰もが働きやすい現場環境整備工事」として男女別快適トイレの設置や現場事務所の快適化等に取り組んでおり、平成29年度からは1億5千万円以上の工事を全て対象にするとともに、それ以外の工事についても受注者からの協議による「快適トイレ」の設置は全て対応するなど拡大を図っています。

また、建設業界に対し、女性の活躍促進意識を啓発するために、女性の活躍促進につながる企業の取組を入札時の総合評価落札方式において評価・加点しています。さらに、建設業の将来を担うであろう学生に対して、建設分野の実務者と意見交流し、業界への理解を深めてもらうための場を提供しています。これまでには女性限定の会を開催するなど女性技術者に向けた取組を図ってきました。

今後は、こうした取組に加え、子育てとの両立など女性が抱える課題についても、柔軟な働き方に対応する制度を建設業団体と共に検討してい

くなど、関係機関と連携し、女性技術者が活躍するための取組に努めていくつもりです。

要望:神戸委員

これは少し前のデータですが、建設業で働く女性はわずか3%という数字です。我々県議会議員も今、女性議員は5名しかいないので5%、同じような数字です。が、土木科・建築家など理工学部に通っている女子大生は30%だそうです。この数字からも女性技術者はこれから確実に増えてきますし、性別に関係なく優秀な人が建設現場で活躍する時代になってきました。

先ほど「けんせつ小町、チーム愛」のメンバーがお手本にしたい先輩がいないので、相談相手がいない、という意見もありました。これから続く女性技術者のためにも、ハード・ソフトの両面を充実させて、働く人のモチベーションが上がるような環境作りが必要になってきます。それが、人手不足の解消に結びつくと思われまますし、最終的には安全・安心な社会基盤の構築につながると思われまます。是非きめ細やかな対応をお願いして質問を終わります。